

## 安全性データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

#### 【化学品の名称】

製品名 ミネスター

#### 【会社情報】

会社名 : 全国農業協同組合連合会

担当部署 : 耕種資材部

住所 : 〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33F

電話番号 : 03-6271-8285

FAX番号 : 03-5218-2536

電子メールアドレス : zz\_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp

緊急連絡番号 : 03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないで下さい。

### 2. 危険有害性の要約

#### 【GHS 分類結果】

物理化学的危険 分類されない

健康に対する有害性 分類されない

環境に対する有害性 分類されない

#### 【GHS ラベル要素】

絵表示またはシンボル : なし

#### 【他の危険有害性】

この製品の粉塵は眼や呼吸器系に対して機械的な損傷を与える可能性がある。

長時間水と接触すると、アルカリ性 (pH9.5 前後) を示すことがある。

### 3. 組成及び成分情報

- 【化学物質・混合物の区別】** 混合物
- 【一般名または化学名】** 特殊肥料（指定名：含鉄物）
- 【成分情報】** 酸化鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)10%以上
- 【GHS 分類に寄与する危険有害成分】** 該当しない

### 4. 応急措置

- 吸入した場合： 速やかに新鮮な空気のある場所に移し、気分が悪い時は医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合： 速やかに水で洗い流す。
- 眼に入った場合： 速やかに清浄な水で洗顔する。眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受ける
- 飲み込んだ場合： 気分が悪い時は医師の診断を受ける。

### 5. 火災時の措置

- 本製品は不燃性である。
- ただし、周辺火災に応じて泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用する。
- 消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

### 6. 漏出時の措置

- 本製品は、固体であり、掃き集めて回収する。ただし、粉じんが発生する場合には、状況に応じて適切な保護具（手袋、保護メガネ、防じんマスク等）を着用する。
- 河川、湖沼等の公共水域に本製品からの溶出水が直接流出し、pH値が高くなることに起因する環境トラブルを引き起こす恐れのある場合には、必要に応じて対策をとる。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

#### **【取扱い】**

- 屋内で取り扱う場合は、換気に注意する。
- 眼、皮膚等への接触を避けるために、必要に応じて保護具を使用する。
- 取扱い後は、顔、手、口等を水で、清浄する。

#### **【保管】**

- 保管中、粉じんが発生しないように注意する。
- 雨水等による浸出水は弱アルカリ性を呈するので、河川、湖沼等の公共水域へ直接流入しないように必要に応じて対策をとる。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 【管理濃度・作業環境評価基準】

粉じん：E=3.0 mg/m<sup>3</sup>（遊離けい酸を含有しない場合）

クロム酸及びその塩：0.05 mg/m<sup>3</sup>（クロムとして）

重クロム酸及びその塩：0.05 mg/m<sup>3</sup>（クロムとして）

マンガン及びその化合物（塩基性酸化マンガンを除く。）：0.2 mg/m<sup>3</sup>（マンガンとして）

### 【許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）】

日本産業衛生学会（2010） 1 mg/m<sup>3</sup>（第2種粉塵、吸入性粉じん）

4 mg/m<sup>3</sup>（第2種粉塵、総粉じん）

0.5 mg/m<sup>3</sup>（3価クロム化合物、クロムとして）

0.05 mg/m<sup>3</sup>（6価クロム化合物、クロムとして）

0.01 mg/m<sup>3</sup>（ある種の6価クロム化合物、クロムとして）

0.2 mg/m<sup>3</sup>（マンガンおよびマンガン化合物、マンガンとして）

### 【保護具】

粉じんが発生する場合は、状況に応じ、適切な保護具（手袋、保護メガネ、防じんマスク等）を着用する。

### 【設備・衛生対策】

屋内で取り扱う場合、管理濃度以下にするため、必要に応じて換気対策をとること。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 【物理的及び化学的性質の基本情報】

外観： 粒状品

色： 黒褐色

臭い： 無臭

pH： 長時間水と接触すると、弱アルカリ性（pH9.5前後）を示す。

高密度： 1.5～1.7 t/m<sup>3</sup>

溶解性： 水に難溶

#### その他の情報

なし。

## 10. 安定性及び反応性

通常の保管及び取扱い条件では安定である。

水と長時間接触すると、弱アルカリ性（pH9.5前後）を示す。

金属腐食性に関するデータ無し。

## 1 1. 有害性情報

この製品の粉塵は眼や呼吸器系に対して刺激物となる場合があり、機械的な損傷を与える可能性がある。長時間水と接触すると、弱アルカリ性（pH9.5 前後）を示すことがある。

急性毒性	区分外（経口、経皮、吸入）
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分外
呼吸器感作性又は皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分外
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

### 【急性毒性】

OECD423 に定められたラットの試験結果（半数致死量 LD50 > 2000 mg/kg）から、経口急性毒性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

OECD402 に定められたラットの試験結果（半数致死量 LD50 > 2000 mg/kg）から、経皮急性毒性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

OECD436 に定められたラットの試験結果（半数致死濃度 4 h r-LC50 > 59 mg/L）から、吸入急性毒性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

この製品の吸入による労働災害は報告されていない。

### 【皮膚腐食性及び皮膚刺激性】

OECD404 に定められたウサギの試験結果、及び文献データから皮膚腐食性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

### 【眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性】

OECD405 に定められたウサギの試験結果、及び文献データから眼の重篤な損傷影響又は眼刺激性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

### 【呼吸器感作性又は皮膚感作性】

欧州化学物質庁 ECHA データベースに登録されている OECD406 に定められた製鋼スラグ(転炉)のモルモット試験結果から、皮膚感作性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

この製品は吸入による労働災害は報告されていない。

### 【生殖細胞変異原性】

化学物質審査規制法に定められた *in vitro* 変異原性試験 Ames 試験の結果は陰性である。

### 【発がん性】

データ無し。

この製品は米国国家毒性プログラム NTP、米国国立労働安全衛生研究所 NIOSH、国際がん研究機関 IARC の発がん性物質に掲載されていない。



生態毒性（慢性毒性）：OECD201 に定められたムレミカツキモの試験結果（72 時間最大無影響負荷率 NOELRr=11 mg/L）から藻類慢性毒性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

#### 残留性・分解性

該当しない

#### 生体蓄積性

生態蓄積性を示すデータはない

#### 土壌中の移動性

データ無し

#### オゾン層有害性

該当しない

### 1 3. 廃棄上の注意

製品を含んだ排水は、関連法令に適合するように十分注意しなければならない。

外部の業者に廃棄を委託する場合、都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令に遵守して適切に処理する。

### 1 4. 輸送上の注意

#### 国際規制

国連番号： 該当しない

海洋汚染物質： 該当しない

国内規制 該当しない

#### 緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

該当しない

特別の安全対策： 輸送に際しては、腐食、水漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に  
行う。

粉じんが発生しない方法で輸送する。

湿気、水濡れに注意する。

## 1 5. 適用法令

労働基準法：疾病化学物質（マンガン及びその化合物、クロム及びその化合物）

労働安全衛生法：名称等を通知すべき有害物（酸化鉄、酸化カルシウム、マンガン及び

その無機化合物、クロム及びその化合物）

労働安全衛生法（特定化学物質等障害予防規則）：特定化学物質第 2 類物質（マンガン及びその

化合物（塩基性酸化マンガンを除く））

労働安全衛生法（粉塵障害予防規則）：粉じん作業

特定化学物質の環境への排気量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律：指定化学物質

（クロム及び三価クロム化合物マンガン及びその化合物）

じん肺法：粉塵作業

作業環境測定法：特定粉じん作業

## 1 6. その他の情報

参考文献：日本産業衛生学会（2015）許容濃度等の勧告

<http://joh.sanei.or.jp/j/index.html>

化学物質総合情報提供システム（CHRIP）（2015） GHS 分類結果

<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html>

欧州化学物質庁（ECHA）（2015）“ECHA CHEM” 物質データベース

<http://echa.europa.eu/>

米国国家毒性プログラム（NTP）（2011）第 12 次報告書

<http://ntp.niehs.nih.gov/?objectid=03C9AF75-E1BF-FF40-DBA9EC0928DF8B15>

米国国立労働安全衛生研究所（NIOSH）（2013）基準書

[http://www.cdc.gov/niosh/pubs/criteria\\_date\\_desc\\_nopubnumbers.html](http://www.cdc.gov/niosh/pubs/criteria_date_desc_nopubnumbers.html)

国際がん研究機関（IARC）（2013）発がん性リスク一覧

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Monographs/PDFs/index.php>

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253：2012、JIS Z 7252：2009 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報に基づいて作成しています。

SDS は、安全管理プログラムを確立する情報の一部を構成していますが、すべての作業環境で生じる状況を網羅することはできませんので注意してください。また、本 SDS における注意事項等は、通常の実施を対象としたものですので、特別な取扱いをする場合にはそれに対応した安全対策をお願いします。

本 SDS は、下記コーエー株式会社の情報を元に作成しました。該当物質については下記にお問い合わせください。

会社名：コーエー株式会社

住所：〒409-3822 山梨県中央区下三條 608

電話番号：055-273-7057

緊急連絡電話番号 : 055-273-7057  
FAX 番号 : 055-274-0144